

ねじりはちまき

4月 卯月 清明 穀雨の月になりました。
4月4日 清明です。6日 春の全国交通安全運動、15日までです。
19日 穀雨、29日 昭和の日となっています。

春の移動性高気圧と低気圧が交互に日本を通過して、晴れたり曇ったり雨が降ったりと、お天気が安定しないことが多くて、せっかくの桜の花を散らす長雨が続くこともあります。

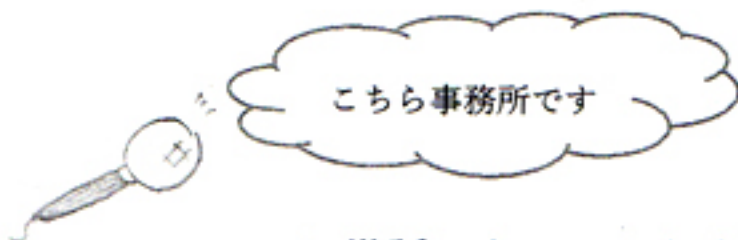
このような雨を春雨とか菜種梅雨などと呼ばれ、春の代表的な季語ですね。

桜の季節は田植え前の季節で、山から田の神をお迎えしてごちそうなどでおもてなしをして、この年の豊作を願うという、花見には本来そうした意味があったようです。

古人の信仰に思いを馳せて、桜と共に静かに、そんな花見もよいのではないかと思います。

流行りのコロナには十分気を付けてお過ごし下さい。

幸田 常一



お世話になっております。
引き続き本宮市の現場で、水害による復旧工事をさせていただいております。

食品ロスについて

マスコミの報道で衝撃を受けたことがある。それは、食品ロスが膨張している現状があるということである。なぜそうなのか、そして削減対策はどうなっているのか、今回はその辺の事情を探ってまいりたい。これは身近な問題でもある。国連でも問題にされている。

まず、食べられるのに捨てられてしまう食品ロス（食べ残し・売れ残り・期限が近い）現状だが、膨張しているというのだが実際どうなっているのか。実は日本の食品廃棄物等は年間2,759万t（2016年）であるが、そのうち食品ロスと言われるものは一体どの位か。驚くことに、643万トンにのぼるのだ。これは国民一人当たりになると51キロになる。一年間にこれだけの食品が食べられるのに捨てられているのが現状なのだ。この量は、何と年間のコメの消費量にほぼ匹敵するというのである。また、この量は世界中で飢餓に苦しむ人々に提供される食糧援助の1.7倍に相当するのである。食品ロス643万トンの内訳は、約55%の352万トンが食品関連の事業系で、残りの291万tが家庭系である。これを見ると、家庭系もほぼ半分近い数字であり、かなり多いと言わざるを得ない。思わず自分の家ではどうなっているのかと振り返ってしまう数字だ。

考えてみると、家庭における食費は消費支出の中で4分の1を占めている状況、我が国の食料自給率（カロリーベース）が38%と輸入に依存している状況からすると無駄にできるものではないと思うが、皆さんはどう思われるだろうか。また大量の食品ロスの発生は、環境に影響を及ぼしている。それは何かというと、廃棄するためのゴミ処理に多額のコストがかかるのみならず、可燃ゴミとして燃やすことでCO2を排出し、さらに焼却後の灰の埋め立て等による環境負荷をかけるという状況がある。これも見逃すことはできない。

こうした食品ロスの現状に対して、国は昨年「食品ロス削減推進法」を定め、行政・事業者・消費者挙げて削減に努めることにしたところである。消費者庁としては削減対策を示し、地方自治体、企業や家庭に向けて呼びかけているとのこと。事業系の食品ロスは、主に規格外・返品・売れ残り・食べ残しなどによる。家庭系の食品ロスは、主に食べ残し・手つかず食品・皮の剥き過ぎなどによる。消費者庁の家庭系への呼びかけを紹介すると、買い物時には①買い物前に在庫の食材をチェックする、②必要な分だけを買う、③期限表示を確認し、賢く買う、そして家庭では①適切に保存、②食材を上手に使い切る、③食べきれぬ量を作る、よう心掛けて下さいとある。これをどの程度実践しているかだが、皆さんの家庭ではどうでしょうか。冷蔵庫を覗いてチェックして見てください。

これに対して事業系への呼びかけは個々の企業によって対応策が異なるため、一般的取り組み要請に留まっているが、取り組み事例があるのでそれを紹介したい。その一つは、容器包装の工夫により鮮度保持期限を延長したり、一人前ずつの個包装により食べ残しを防ぐようにする、二つ目は、アプリ開発業者が飲食店と提携して、閉店近くに余って廃棄の危機にある安全でおいしい食事を食べてもらおうと、ITを使ったフードシェアリングサービスを展開している、といった取り組み事例があるという。思い出したが、もう一つ加えたいものがある。時期限定の商品について予約制にするという動きだ。例えば、節分商戦で登場する恵方巻やクリスマス商戦で登場するクリスマスケーキである。その時期が過ぎれば廃棄される。しかも大量にである。恵方巻は廃棄する場面がテレビ報道されて批判を浴びた。農林水産省も乗り出し、それで見直しの動きとなった。昨年12月のクリスマスケーキについて予約制にしたところ（コンビニ）は、逆に前より利益が上がったとのことだ。コンビニといえば「おでん」を販売しているが、これも食品ロスが多いため、ロスを削減するために従来のやり方を改め、注文を受けてから温めて提供する方法に変えたとのこと。

ここまで書いてきて思ったのだが、事業者は、とにかく鮮度の良い商品を求める消費者ニーズに応えようとして努力し、独自の厳格な販売期限を設けて対応していることが食品ロスを生む一因にもなっているのかもしれない。どうだろうか。例えば、スーパーなどでは賞味期間が6ヶ月の場合、賞味期限まで2か月を切ると廃棄してしまう3分の1ルールというのがあるといわれる。そこまでいっているのかと、思わず唖ってしまう。

では、事業系の食品ロスを削減するために、個々の企業が努力することは勿論だが、企業と他（小売店など）を結ぶ社会的システム（ウィンウィンの関係）を構築することによって削減の方向を広げることができないものだろうか。実はその試行錯誤に展開されている。その一つが東京北区の「アイムライズ」である。社長は農家育ちで“食べ物は余さずいただくんだよ」と親から躰られたので、食品ロスの現状に心を痛めて仲介の業を始めたとのこと。その仲介とはどうするのか。例えば、過剰在庫を抱えて処分せざるを得ない状況にある食品情報を、それを必要としている小売店に提供し、食品の取引はその企業と小売店で行ってもらい、自分の会社は手数料をもらう。それで食品ロスは避けられる。小売店は賞味期限ま近・切れ、賞味期限関係なしの表示をして、格安で消費者に提供できるというわけである。それに抵抗感なく、求める消費者がおり、買いにくるのだ。

また、食品ロス削減に登場しているのが「フードバンク」である。フードバンクとは何か。フードバンクは、安全に食べられるのに包装に印字ミスや破損があったり、賞味期限が近かったりするなどの理由で企業が販売しない食品を寄付してもらい、福祉施設や生活困窮者に無償で提供する活動をしている。日本でフードバンクは、2019年には105団体まで増えてきており、大手企業でもケンタッキーフライドチキンの運営会社やローソンが協力を始めている。ただ、現状としては事業系で352万トンの食品ロスが発生しているのに、フードバンクで活用されているのは年間4千トン前後に留まっているとのこと（全国フードバンク推進協議会の調べ）。つまり、現状としては、支援ニーズに対して、提供される食品が圧倒的に足りていない状況にあるという。そこで、先に述べた法律の制定もあり、この度農林水産省が乗り出したという報道だ。国がフードバンクへの支援を強化するとの方針を明らかにしたのである。これは勿論食品ロスの削減につなげようとの狙いである。ではどうしようというのか。取り組みとしては、食品メーカーや小売店に提供可能な食品の情報（種類・量・時期など）をオンラインで入力してもらい、運営団体や福祉施設は必要な量や時期、受け取り場所を登録し、相互に条件の合う相手を探して円滑な受け渡しができるよう橋渡しをしようというものだ。2020年度からその実証実験を始める。この実証実験がうまく運び、新しいシステムが全国的に広がることを期待したい。このシステムがうまくいくためには課題もありそうだ。それは、提供した食品で食中毒などの事故が起きた場合、責任を追究されるのではないかと懸念を抱く企業が多いことや、フードバンク利用者が食品を転売するというトラブルが心配されることをクリアする必要がある。この点、アメリカでは善意で寄付された食品で衛生上の事故が起きても、故意や重大な過失がなければ寄贈者は免責されるとの法整備がなされている。日本でも民間任せではなく、法整備を目指して検討を急ぐ必要があると思う。一方、フードバンクの利用者だが、東京都内の利用者のひとり親（183人）にアンケートをとった調べがある。それによると、年収200万未満で1~3人の子育てをしているのが47%で、月の食費が3万円以下というのが半数以上であったとのこと。フードバンクが間違いなく低所得者にとって支えになっていることが伺える。企業の食品ロスの削減と低所得者の食品支援が双方成り立つ、ウィンウィンの新しいシステムの構築が一日も早からんことを願うものである。

新型コロナ禍の中の三重県・滋賀県境の二山

【今回登った山の概要】

(百は日本百名山、◎は日本二百名山、○は日本三百名山、数字は標高)

- ①3月24日(火) 御在所岳 (◎ございしょだけ、1212m、三重県菰野町・滋賀県東近江市、鈴鹿山脈の盟主)
- ② 25日(水) 藤原岳 (○ふじわらだけ、展望丘 てんぼうきゅう 1140m、花の百名山、三重県いなべ市・滋賀県東近江市、鈴鹿の名山)

①3月23日(月) 移動

御在所岳登山口までの行程で最も効率的なのは、前日に郡山20:50発のバスで名古屋まで行くことだ。今回は9時間も密閉状態の夜行バスは避けて、新幹線を利用することにした。

自宅を10時に出て郡山駅始発の「なすの」に乗る。ガラガラで1車両に5人しか乗っていない。曇り空、スピードダウンした東京では学校の桜が満開だ。東京駅で「ひかり」に乗り継ぐ。

「のぞみ」は本数が多いがジパングクラブの割引対象となる「ひかり」の本数は30分おきに1本。車両に乗客は10人くらい。富士山は厚い曇りでお目にかかれなかった。静岡を過ぎるとカラッとした青空になり、名古屋で近鉄に乗り換え、近鉄四日市で湯の山温泉行に乗る。四日市は空の青さが濃かった。

この路線は単線で緩い勾配をゆっくりと走る。先頭車両の車窓からは、黒々とした鈴鹿の山並みが行く手を阻むように連なり、山々は急峻で、登高意欲がわいてくる。

終点「湯の山温泉(*)駅」まで乗っていたのは同じ車両には自分一人だった。宿泊所に電話し、お迎えのワゴン車に乗り16:15「国民宿舎 湯ノ山ロッジ」着。

山峡に、前後を勾配の急な岩がゴロゴロした川・溪流に挟まれて建つ2階建ての結構大きな国民宿舎の玄関には自分の名前だけが書いてあった。コロナ騒ぎで、家族連れが全てキャンセルになり、お客は山登りとゴルフ客のみとのこと。

(*) 湯の山温泉

「開湯1300年」と書かれた湯の山温泉協会のチラシには11軒の旅館やホテルが掲載されている。「鹿の湯伝説」のコラムには次のように記載されている。・・・別名“鹿の湯”と呼ばれる、湯の山温泉の伝説のひとつ・・・「むか～しむかしのこと。ひとりの心やさしい木こりが、山で一頭の傷ついた鹿を見つけました。後をつけていくと、鹿は谷川に傷ついた足をつけ、なにやら気持ちよさそうにしています。その時、木陰に狩人の姿が。木こりは大声をあげ、この鹿を逃してやりました。

それから数日後、木こりのもとにいつぞやの鹿が訪ねてきて「危ないところをありがとうございました。あのくぼみには、ケガに効くお湯が湧き出ているのですよ」と告げました。その話はまたたく間に遠い村々や町にまで広がったとか。

広い食堂で一人、山峡の暮色を眺めながら食事する。エアコンと冷蔵庫の音が大きく感じる。残念ながら温泉は“湯の山温泉”の源泉を引いているのではなく、希皇石を使ったものだった。

①24日(火) 御在所岳

5:30 起床、晴れ、風がある。清算、ビール1本を含めて9,850円。7時前に食事をして、荷物は預け、サブザックを持って宿舎の車で登山口まで送って貰う。助かった、歩くと上り坂なので20分以上かかるとのこと。

この山は、ロープウェイとリフトを使って多くの観光客が年間を通じて訪れるとのこと。上にスキー場もある。

“表道コース” “裏道コース” などいくつかのコースのうち、中上級とされる“中道コース”を登る。登山届けの入ったブリキの函の表面の氷が溶け出していた。カードに記入していたら、熟年男性がやって来て話しかけてきた。一緒に登ることでまとめ、7:35、自分は後方で出発。話ながら結構急な、良く歩き込まれた、花崗岩の掘割りの道を登って行く。

Tさんは70歳を越えたばかりで、前日に、自分が明日登ろうとしている藤原岳に登ったとのこと。群馬県在住だが実家のある富山県の家といわば二地域居住で、日本300名山を目標にしている人だった。百名山を登り終えて、九州から四国、中国地方の300百名山を登り近畿の山まで来たとのこと。軽自動車に寝泊まりしながら登っていて、時々富山と群馬に帰るとのこと。互いに共通した思いがあるのでいろいろと情報を交換し参考になった。富山の母の介護で一時山登りを中断していたが、母を精一杯介護し、1年前に看取り、今は心置きなく山登りをしているとのこと。群馬にいる奥様は趣味の世界に独自の生き方をしているとのこと。

尾根に出ると風が強く左側の展望が開け大きな谷の上方にゴンドラのロープが2本張られている。まだゴンドラは動いていない。

巨大な花崗岩が少し斜めに柱(板)状に重なる負レ石(おぼれいし)のところで休憩する。中上級コースとされながら、そんなに危険なところはない尾根状の岩を縫って登って行く。ゴンドラの巨大な鉄塔の背後に御在所岳本峰の姿がかっこよい。振り返ると鎌ヶ岳(1161m)の鋭峰が見える。

キレット(*)の下降は鎖が張られている。天気も良いし怖くはないが、岩の陰に昨夜飛んできた雪が凍ったところがあり、慎重に下る。

赤い小さなゴンドラが動きだしている。

(*) キレット：山の尾根のくぼんだ部分（鞍部）の特にV字状態に深く切れ込んだ場所のことで、登山における難所のことが多い。日本語の「切戸」から来ている言葉。

9:50 ロープウェイの山上公園駅の遊歩道に出る。ベンチの後ろの棚みたいなのが氷柱（つらら）になっていた。

地肌が出ているスキー場を歩いて行くと10:15 一等三角点御在所岳頂上に着く。2時間40分の道のりだった。[←滋賀県・三重県→]の県境の標識、[鈴鹿国定公園]の標識もある。ベンチ下の日影に雪が薄く残っている。望湖台からは薄曇りで琵琶湖は見えなかった。観光のお客さんが結構いたが軽装で寒そうだった。

11時、往路と同じ“中道コース”を戻るTさんと別れる。福島の時とは連絡くださいと電話番号を交換する。Tさんは翌日、奈良県の吉野地方の山を登るとのこと。

ゴンドラからのお客さんが賑やかになってきた。

自分は天気も良いことだし、足を伸ばし北側の国見岳（1170m）を目指す。裏道分岐まで戻り樹林の中を下り、十字路分岐点の国見峠に着く。東側の“裏道コース”からは家族連れや熟年の男女が登って来る。熟年女性の登山者と話したら国見岳からの下山路は長くて急勾配だが風は当たらないだろうとアドバイスを貰う、

国見峠からさらに北に登って行くと見晴らしの良いガレ場に出て、そこから見えた御在所岳北面の「藤内壁（とうないへき）」は迫力があり、“中道コース”の景観とは異質のものだった。

さらに登ると国見岳山頂の手前の国見尾根分岐にある「石門」は巨大な花崗岩が重なりあったもので人一人が通れる門のようになっていた。国見岳は名前のおり見晴らしが良く、うっすらと、多分、四日市や鈴鹿市街の伊勢平野や伊勢湾が見えた。11:45 下山。

樹林帯の急なヤセ尾根を下ると“天狗岩”に着く。岩の下で昼食にする。登れるらしいが怖いのでやめる。さらに少し下ると“ゆるぎ岩”があった。これは登ってみると遮るものもない眺望だ。このコースを下山路にして良かったと思った。

樹林帯の急な道を下り、13:15 藤内小屋に着く。国見岳からの下山では誰にも会わなかった。記念バッチを求めようとしたが、鍵がかかっている無人のようだった。日帰り可能な山に宿泊できる山小屋があるのは不思議な感じだ。

踏み込まれた道を川沿いに下っていくと川の向かいに新しそうな小屋（日向小屋）があった。さらに下ると蒼滝（あおたき）標識のところに出る。少し迷ったがパンフレットに出ている観光名所だったので下ってみることにした。遊歩

道として整備された幅広のジグザグの石の階段を数えていったら 275 段あった。高校生か若者のグループが階段を走って登ってきた。元気が良い。滝そのものはたいしたことはなかった。

登り返して進み、下って行くとロープウェイ湯の山温泉駅近くの温泉街に出た。登山口・一合目の標識があった。温泉街の舗装された道路は曲がりくねり勾配があった。途中でお客様を送り出してきた若い女性に湯の山ロッジまでの道を聞いたら親切に教えてくれた。道路脇に、電話で照会したことのある温泉協会があったので、入ってみたら、小さな事務室に 70 才前後の男性がいて、登山の記念バッチがないか聞いてみたら、取り出してきて、差し出してくれた。スキーとストックの図柄に“gozaisyo”と筆記体で書かれたものだった。20 年くらい前に作ったバッチとのことで、代金を聞いたら、指で〇(マル=ゼロ)と示し受け取ってくれなかった。

道なりに下り、湯の山ロッジに 15 時前に着く。7 時間半近くかけた、山頂ピストンでない欲張りの山行を無事終える。

風呂には入らず、タクシーを呼んで貰い、迎え料金 100 円を加算した 1,170 円で湯の山温泉駅に着く。

当初のほぼ計画通りの時間で、15:32 発、近鉄四日市で名古屋線に乗り換え、近鉄富田駅で三岐(さんぎ)鉄道に乗り換え、伊勢治田(いせはった)駅に 16:58 に着く。三岐線はスピードを出すためか線路が傷んでいるためか、地図を読むこともできないくらい揺れた。四日市駅のコンビニで翌日のパンや飲み物を買う。

3 種類のガイドブックには、登山口のある西藤原駅近くに民宿が 1 軒と旅館が 1 軒あると紹介されていたので連絡してみたが、電話が通じなかった。20 日から 3 連休で市役所は休み、週明けに泊まるところが確定できなくて困ってしまって、ダメ元で西藤原駅に聞いてみたら 3 駅手前の伊勢治田(いせはった)駅近くにある旅館を教えてくれた。

旅館は駅が見える踏切を越えてすぐのところだった。

女将さんに聞くと客は自分一人とのこと。案内された 2 階の 6 畳間はサッシでないガラス戸にカーテン 1 枚の寒々とした部屋だった。もちろんトイレも風呂も付いてなく、1 階に共用。

6 時からの夕食は台所脇の食堂で、テレビを見ながらビールを飲み、ボリュームのある家庭料理を美味しくいただいた。ご飯も自分で分ける。旦那さんが説明してくれたが、コロナ予防のためか、女将さんは出てこなかった。

②25 日(水) 藤原岳

5:30 起床、6 時半からの朝食を少し早めに出してくれてきちんとごちそうに

なった。宿泊代金はビール1本を入れて7,400円だった。

伊勢治田駅6:58発、次の東藤原駅には太平洋セメントの大きな工場があり、藤原岳の東面は石灰岩が切り出された人工的な壁面になっている。西藤原駅に7:09着。前もって駅に聞いていたので、荷物を預かって貰い、470円支払う(本当は430円で後で40円返してくれた)。

コースがいくつもあるうち、駅から最も近い大貝戸(おおがいど)道コースに行く。7:30神武神社の大きな石の鳥居をくぐって行く(一合目)。鳥居の脇には休憩所とトイレ、駐車場があり、5~6のグループが発発の準備をしていた。

藤原岳の標高は1140mだが標高差は約1000mあり登りがいがある。杉林の中のつづら折りの登山道は良く整備され、踏み込まれて歩きやすい。四合目を過ぎて落葉広葉樹林となり、陽光が射し込んで、気持ちの良い道だ。

九合目9:07着、順調だ。散在する石灰岩の脇からフクジュソウがたくさん咲いていた。登山者がカメラを向けている。花の百名山の面目は時期的にはこれからか。

藤原岳山荘(避難小屋)のあたりからは景色が一変し、それまでの樹林帯から広々とした雄大な景観になり、石灰岩の白っぽい岩(石)がゴロゴロと散らばっている(カルスト地形)。

10時、山頂標識のある藤原岳展望丘1140m着。快晴、名前のおりピークではなく広大な展望が広がるいくつもの岩の丘だ。20人くらいの登山者が写真を撮ったり食事をしていた。見下ろすと山荘付近にも大勢の人がいて若者のグループなどが展望丘を目指して登ってくる。

山に詳しい人がいて山座同定をして教えてくれた。遠く北方に近日に降った雪をいただいた白山(百2702m)が文字通りの真っ白な姿で鮮やかに見えている。ここからの白山は左右均整のとれた裾をなびかせている。白山のずっと右手遠くに北アルプス(百、槍ヶ岳3180m、奥穂高岳3190mなど)・乗鞍岳(百3026m)・御嶽山(百3067m)は上部が白く、右手前の恵那山(百2191m)は黒々としている。今の時期の3,000m級の山と2,000級の山との違いか。伊吹山(百1377m)も見えているはずだが多くの山々に埋没している。東方に伊勢平野、伊勢湾が霞んでいる。南側近くには前日に登った御在所岳と鈴鹿の山々が見えている。藤原岳最高地点の天狗岩(1170m)に向う。戻ってくる登山者のグループとあいさつをかわす。

天狗岩の先は急な崖となっていて、深い谷を経て鈴鹿の山々と連なっている。女子一人を含む4人の若者のグループがコップェルでお湯を沸かし食事をしていて。自分はさらに先に進むことにした。天狗岩分岐まで戻り北の白瀬峠(しらせとうげ)を目指す。

頭陀ヶ平(ずだがひら1143m)の手前で熟年の男性登山者と出会う。引き返して

大貝戸登山口に戻ると言う。送電鉄塔の建つ頭陀ヶ平には三角点があり、ここからも遠く白山を望むことができた。落葉した樹林の緩やかな道を下り白瀬峠の分岐で休憩し立ったままパンをかじる。12:15 発。

以降は標識に従い坂本谷分岐を左折し送電線巡視路の木和田尾を下り 13:40 白瀬峠登山口着。途中、休んでいた一人の登山者がいただけだった。

この下山コースは前日の御在所岳の下山路、混交林でヤセ尾根の急勾配のコースとは対照的に、緩やかな尾根上の陽の差す広葉樹の道で、共通しているのは、山頂付近の賑わいと下山コースの人のいない静けさだ。

登山口からうっそうとした植林の杉林を抜けて国道 306 号に出て、歩きながらタクシー会社に電話し、大きな看板が見えた「簡易パーキング藤原」に来て貰うことにする。20 分ぐらいかかるというので、上半身を着替え、濡れたものを満開の桜の木の枝にかけて乾かす。

タクシーで 14:20 西藤原駅着、約 7 時間の山行を無事終える。朝は急いでいたので気にとめなかったが桜が満開だった。10 分前に電車は出たところだった。次の電車は 15:11 発。それぞれ別個の登山者が 7、8 人集まってきて山談義に花をさかせている。

ところが 15:11 過ぎ、誰かが、電車が出てしまったと言う。確かに待合室からは事務室があり、ホームの電車は見えない構造になっていた。皆、始発駅なので発車の案内があると思い待っていたら案内がなかったのだ。朝と同じ 70 歳位の駅員の人だったので安心して話に夢中になっていた。自分は話しに加わってなくザックの整理をしていた。

10 人近くの人が折り返し電車の着、発に全く気が付かなかったわけだ。一人が駅員の人に皮肉交じりにやんわりと抗議したら、自分は定期券購入の相手をしていたので・・・などとしどろもどろの言い訳。それ以上強くは言わなかった。次の電車は 15:38 発、結局自分としては 1 時間 20 分近くの待ち合わせとなった。

近鉄富田・近鉄名古屋駅経由、JR名古屋駅でひかり、東京駅でやまびこに乗り換え、郡山駅に 21:02 着。妻に迎えに来て貰い、自宅 21 時半無事到着。

今回は新型コロナウイルス禍の中の山行となったが、列車での往復中、マスクを着用し人との接触を極力避けての行動に務めた。

帰宅から 2 週間、自分も妻も体調に変化なく、酒も食事も美味しいすこぶる元気に過ごしているので感染はしていないと自己診断している。

<会社近況>

4月に入りました。
新型コロナウイルスの感染拡大のニュースばかりで、不安な毎日ですね。
4月といえば小中高大学への入学、また企業への入社などがあって、
「おめでとう！」の声があちこちで聞かれる、大変おめでたい月でもあるはずなのに。1日も早く収束し、いつもの日常に戻れることを願っています。
弊社でも感染予防対策として出勤前の検温、手洗いうがいの徹底、除菌剤の使用などひとりひとり意識して対策を行っているところです。
事務所内でもこまめに換気を行い、テーブルや椅子、ドアやトイレ、蛇口など拭き取りを行っています。
そんな中、弊社にも来月から1人仲間が加わることになりました。
星野尚子（ほしのなおこ）38歳。本宮市在住です。
事務を担当することになりました。
ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしく願いいたします。
（6月からねじりはちまきの担当になりますので、よろしく願いいたします。）

❀ 5月連休のお知らせ ❀

5月2日（土）～5月6日（水）までお休みさせていただきます。
ご迷惑をおかけいたしますが、よろしく願いいたします。
尚、7日（木）は平常通りの営業です。

令和2年4月5日発行
有限会社 幸田建設
<発行責任者> 幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1-1
電話 0243-44-3816

<後記>

「トムとジェリー」と発音できず
「トマトゼリー」になってしまう孫
も、いよいよ4月から幼稚園入園。
ありがたいことです。たくさんたく
さん遊んでおいで。♪（事務員k）